

【オレンジコラム第16号】

《認知症とラジオ》

番組の原点は、約30年前の脳血管性認知症の父との体験

30年前、認知症（当時は痴呆症と言われていた）のイメージは、『人格が変わる』『何も判らなくなる』だから世間に知られたくないというものでした。

しかし父との日々は、父、自ら丁寧にに入れてくれた煎茶で季節の和菓子を味わったり、通院帰りに外食を楽しんだり。物忘れ等から生じるチグハグには、本人の気持ちを否定せず、ゆったり向き合うことがベターだという情報を事前に知っていたからこそ温厚な父との時間が続けられたんだと思います。

番組で伝えてきたことは、誤解が解けて安心できる情報

番組制作では、当初から認知症専門の医師や認知症ご本人の協力を得て、認知症の誤解を解き不安を軽くすることを心がけてきました。

専門医には、認知症の困りごとの症状が出るメカニズムとその症状を改善する具体的な接し方や、言葉がけなどを解説してもらいました。専門医からの「薬よりも人との会話が症状の進行を遅らせる」という言葉が印象的でした。

認知症ご本人が出演された時、自身のことについて「（物忘れをするので）不便だけど私の人生は不幸じゃない」と凛とした表情で語ってくださいました。

現在の配信番組では、三田市地域包括支援センターの協力のもと、例えばSOSを出せずに頑張りすぎている方に向けて、各種支援や困りごとに共感してくれる場やグループの存在を紹介し、認知症になっても誰もが安心して暮らせるような情報も発信しています。

今回の執筆者 門垣 登志子さんは、兵庫県三田市のウェブ・ラジオ局「ハニーFM」の代表兼MCです。地域の情報や福祉・介護など幅広いテーマを、明るく親しみやすいトークで届けています。

<https://fm822.com/>

ポッドキャスト番組

【もっと知りたい認知症のこと】

毎月第1月曜日に配信中
過去の配信分もいつでも
聴くことができます

